



## 目標 5

ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女児の能力強化を行う

ターゲット 5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

## 家庭再建教育



新しいセンターの開所式



チョシカ市長より毛布の寄付に対して感謝状

中南米  
ペルー

## 貧困地域の共同食堂で家庭再建教育

**概要：**ペルー政府は貧困地域の対策として、共同食堂で安価な食事を提供している。食堂周辺地域の婦人リーダーを中心に近隣に住む婦人たちが料理を作り、それを販売して資金を得て運営されている。貧困地域の女性の多くは、家庭内暴力、家庭不和、麻薬、育児放棄、未婚女性の妊娠出産など深刻な問題を抱えている。

WFWP は 2007 年 8 月に、リマ市の貧困地域の中の 9 ヶ所の共同食堂に会員制のファミリーセンター (FC) を開設し、周辺地域の母親を対象に家庭再建教育を開始した。9 ヶ所のセンターには WFWP 派遣員と日本の支援者の名前がセンターの名前としてつけられており、派遣員や支援者は自分の名前がついたセンターの教育を支援している。

継続して 1 ヶ所のセンターで年に数回講座を開催。5 月の母の日と 12 月のクリスマスに参加者全員にホール・ケーキをプレゼントする。

WFWP の理念に基づいたセンターの教育は、センター周辺地域の女性の地位向上、夫婦関係や親子関係の修復などの家庭再建、そして地域の治安向上に重要な役割を果たしている。

会員数と講義数	2017			2018		
	FC 数	会員数	講義数	FC 数	会員数	講義数
リマ市	9	234	4	9	234	1
	45	386		45	366	
プーノ市	6	132	3	6	132	0
トゥルヒーヨ市	6	293	9	9	330	10
合計	66	1,045	16	69	1,062	11

## 進展状況

## 【2017】

- 8 月 30 日、WFWP ペルーのリーダー研修会の最終日に、洪水被害を受けたチョシカ市を訪問。日本の青年ボランティア隊が支援した日にハプニングがあり、毛布を最後まできちんと渡すことができなかつたため、その穴埋めも兼ねて支援に出かけていき、32 枚の毛布を被災者に直接手渡した。青年ボランティア隊と合わせて 217 枚を被災地に寄贈した。
- 8 月 31 日、チョシカ市役所を訪問し、チョシカ市長から毛布支援の感謝状を授与された。
- トゥルヒーヨ市は、支部長が夫と共に、模範的で安定した講義活動が続いている。講義を聞くときは必ずノートをとるように指導し、婦人たちの意識もずいぶん変わってきており、「生活が良くなってきている。」という声が多く上がってくるようになった。また、年 2 回プレゼントしているホール・ケーキは、食べたなら無くなるので残るものが良いという参加者の希望があり、この年の母の日から、小さな花瓶の置物など食品ではない物に変えた。

## 【2018】

- 10 月の訪問時に、塩沢派遣員は、リマ市ワイカンのファミリーセンターの 70 人のリーダーたちひとりひとりを 4 日間で直接訪問して交流した。広島からの支援者からの手作りバッグをプレゼントした。
- 10 月 11 ~ 13 日、トゥルヒーヨ市で WFWP ペルーのリーダー研修会を開催。3 か所のセンター開所式に椅子とホワイトボードを寄贈。毎月模範的な訪問講義活動をしているトゥルヒーヨの支部長の活動現場と一緒に同行して体験することで、リマやプーノの理事たちにとってよい刺激になった。

## 国際協力青年ボランティア・ペルー隊

★ 2017年8月17日～30日 青年6人参加

<活動内容>

- リマ市の貧困地区ワイカンにある「ファミリーセンター」4ヶ所を訪問し、支援物資を寄付。そのうち2ヶ所でファミリーセンターの外壁のペンキ塗りと昼食の調理の手伝いをした。
- WFWPで支援している「サン・ファン・デ・ベジャ・ピスタ小学校」を訪問し、先生方と児童一人ひとりに文房具を贈呈。その後歯磨き指導とミニ運動会を開催。
- 洪水の被災地チョシカ市を訪問。日本から160枚の毛布を運び、現地で25枚の毛布を追加して、合計185枚の毛布を被災者に直接手渡した。
- カトリックの老人ホームを訪問。
- 「国際青少年デー記念イベント・姉妹結縁式」を開催。日本の青年たちでカレーライスとコーヒーゼリーを作って参加者にふるまい、エンターテインメントでは浴衣を着て踊った。日本のペルー隊の青年と、ペルーの青年たちが姉妹結縁を結んだ。
- リマ市内観光：カテドラル、ワカプクヤーナ、アルマス広場、ラルコ博物館
- 世界遺産「クスコ」と「マチュピチュ」を観光。
- 3年間日本のボランティア隊を受け入れてくださったWFWPペルーに感謝して、記念植樹と記念植花を行った。



日本から運んだ160枚の毛布



チョシカの洪水被災者一人一人に毛布を寄贈



親子でペンキ塗り



昼食の準備をお手伝い



小学校で歯磨き指導

## 参加者の感想

吉田 奈美 (高校卒業)

日本では衣食住不自由なく暮らしていますが、そのような生活が当たり前でない人たちがいることで現地の現状を知りたいと思いました。

ペルーの活動を通して印象に残ったことは2つあります。

1つ目はペルーの歴史から謙虚と感謝の心を感じ取りました。ペルーには色々な文明があって、太陽の神や大地の女神など自然のあらゆるものを神として崇拝していたと知りました。博物館や観光を通して、ペルーには自分は1人で生きているのではなく、周りによって生かされていることに感謝している人々が多くいることが分かりました。

2つ目は女性連合の活動を知ったことです。ファミリーセンターでは現地の方々がとても優しく笑顔で私たちを迎えてくださいました。私からしてみると生活は不便なことばかりですが、深刻そうではありませんでした。しかし、昔は物を「私にもくれ、私にもくれ」と大変だったそうです。女性連合のセミナーで為に生きる喜び、女性の価値、幸せに生きられる手助けすることで人々の心が変化したと聞きました。物を与えることも必要ですが、心のあり方を変える教育も大切だと知りました。そのような女性連合の活動を知り、そして実際に心を込めて私たちを迎えてくださるペルーの方々を見て素敵な活動だと思いました。